

桜島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、2月3日から6日にかけて爆発的噴火¹⁾が4回発生しましたが、6日11時25分の爆発的噴火以降、噴火は発生しておらず、噴煙の高さは概ね200mで経過しています。

このことから2月20日14時20分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から2(火口周辺規制)に引き下げました。

昭和火口及び南岳山頂火口では、今後も火口周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う大きな噴石の飛散に警戒が必要です。

風下側では降灰等に注意して下さい。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

○活動概況

・噴煙活動の状況(図2)

昭和火口では、2月6日11時25分の爆発的噴火以降噴火の発生はなく、少量で白色の噴煙が時々観測され、噴煙の高さは火口縁上概ね200mで経過しています。

南岳山頂火口では、7日にごく小規模な噴火が発生しました。

・火山ガスの状況(図2)

二酸化硫黄の放出量は、噴火前は1日あたり1000トン前後で推移していましたが、2月5日には一日あたり3800トンと増加しました。2月15日に行なった観測では一日あたり600トンと少なくなりました。

・地震及び微動の発生状況(図2)

火山性地震及び火山性微動の発生は、少ない状況が続いています。

・地殻変動の状況

山体の膨張を示すような地殻変動は観測されていません。

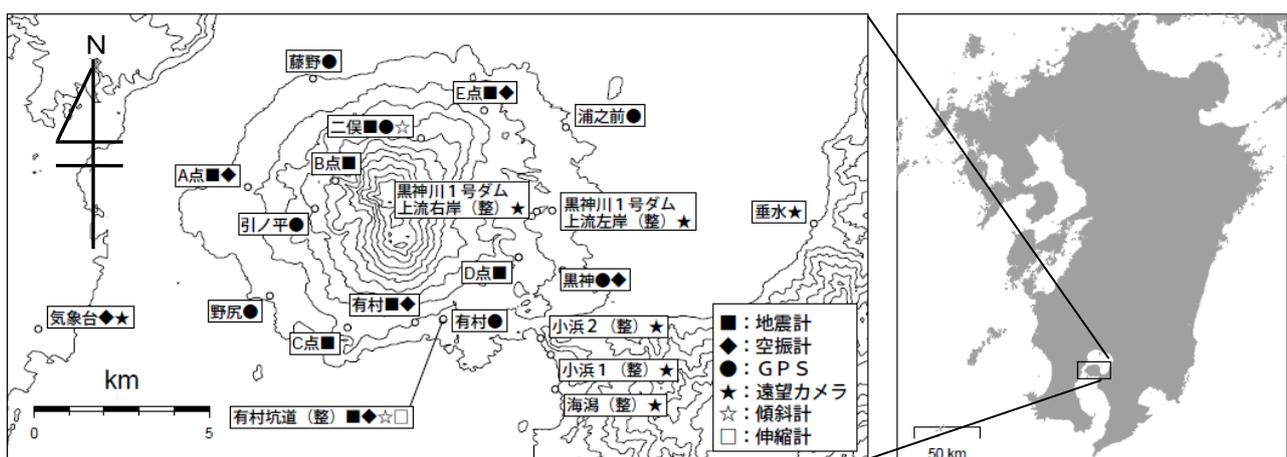


図1 桜島 観測点配置図

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※この資料は気象庁のほか、大隅河川国道事務所、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

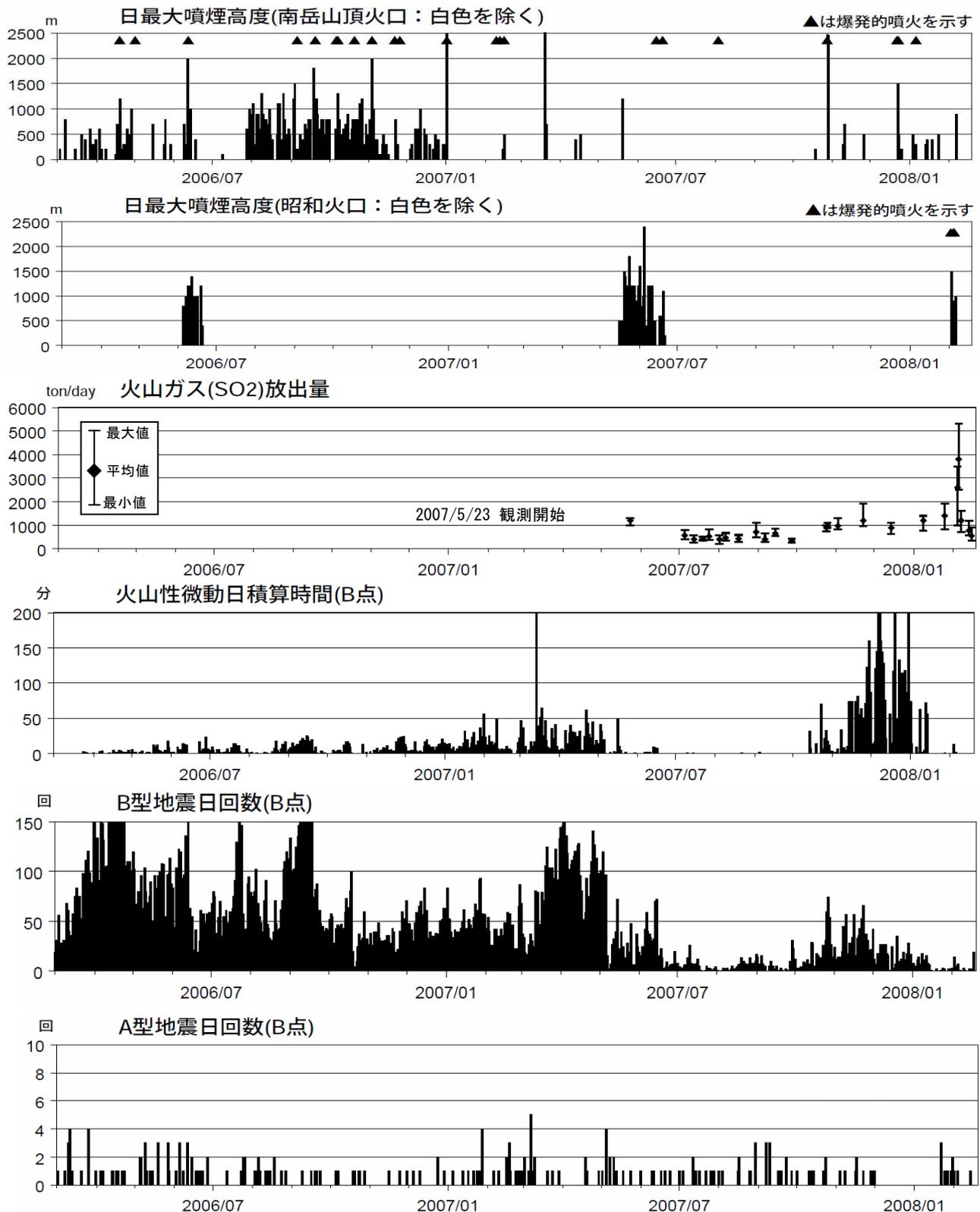


図2 桜島 火山活動経過図 2006年3月1日～2008年2月19日

- ・昭和火口では、2月6日11時25分の爆発的噴火以降、噴火の発生はなく少量で白色の噴煙が時々観測され、噴煙の高さは火口縁上概ね200mで経過しています。
- ・二酸化硫黄の放出量は、噴火前は1日あたり1000トン前後で推移していましたが、2月5日には一日あたり3800トンと増加しましたが、2月15日に行なった観測では一日あたり600トンと少なくなりました。
- ・火山性地震及び火山性微動の発生は、少ない状況が続いています。